

# 定例教育委員会会議録

(令和3年8月6日開催)

岡谷市教育委員会

# 定例教育委員会【議事録】

日 時 令和3年8月6日(金)  
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 603会議室  
署名委員 高木委員、藤森委員

## 【次 第】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. 令和3年度岡谷市教職員研修について【資料 No.1】 (教育総務課)
2. 家庭でのインターネット環境について【資料 No.2】 (教育総務課)

### ○ 報 告

1. 令和3年6月定例会の一般質問について【資料 No.3】 (各課)
2. いじめ根絶子ども会議Ⅲについて【資料 No.4】 (教育総務課)

### ○ そ の 他

- ・行事等について (各課)
- ・その他

【次回開催予定】 9月8日(水) 9時30分～ 岡谷市役所6階 605会議室

## 出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、  
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

## 事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、  
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、教育総務課教育企画主幹 伊藤 清和、  
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 新村 尚志

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： それでは、ただ今より、定例教育委員会をはじめます。

本日の署名委員は高木委員と太田委員にお願いしたいと思います。

### ○教育長報告

岩本教育長：

梅雨明けから暑い夏を迎え、ここ数日は県内にも熱中症アラートが出るほどの酷暑が続いております。熱中症に気を付けながら、この夏を乗り切っていきたいと思います。

そんな中、7月23日から世紀の祭典である東京オリンピックが始まり、各国を代表するトップアスリートの熱戦が続いております。今回は残念ながら無観客での開催となりましたが、全国の人々がテレビを通じて日本代表の選手を応援しています。日本の連日のメダル獲得と、選手の頑張りに感動をもらいながら、スポーツの素晴らしさを改めて感じているところであります。

一方で、新型コロナウイルスについては、デルタ株が猛威を振るう中、国内は第5派とされる感染増加が顕著になっております。県内、諏訪地域においても感染者の急増により、諏訪地域の警戒レベルは4に引き上げられております。

今週に入り、諏訪地域での感染が急速に広がっていることから、県独自の警戒レベルは、今後レベル5に上がる可能性もあります。ここに来て、予断を許さない状況が続いておりますが、教育委員会としましても、感染が広がらないよう、できる対応は講じていきたいと考えており、引き続きの感染防止対策の徹底と注意喚起に取り組んでまいりたいと思います。

ワクチン優先接種については、市独自の取り組みとしまして、先行して7月末から教職員への優先接種が始まっております。加えて、今年受験を控える市内在住の中学3年生と高校3年生に対するワクチンの優先接種が始まります。

既に、岡谷市新型コロナウイルスワクチン接種対策室より、各家庭に接種券等が郵送され、希望者には8月中旬からの予約を受けていただけることとあります。

子どもたちの進路を決める大切な時に、万全の体制で臨んでもらえるように配慮をいただき、大変ありがたく思っております。

それでは本日の報告事項に入ります。本日は、あわせて3点です。

### ●「おかや 夏休み小学生わくわくサマースクール」について

始めに、教育総務課からは「おかや 夏休み小学生わくわくサマースクール」についてであります。

先日、草間職務代理と一緒に、湊小学校と神明小学校を訪問し、「おかや夏休み小学生わくわくサマースクール」の様子を拝見させていただきました。

講師をお願いした、薩摩林先生の指導による「わくわく科学教室」は、

岩本教育長： 当初想定した定員を大きく上回る応募があり、子どもたちの人気の高さが伺えました。参加した子どもたちは、自分でつくった「空気砲」を使って、箱から飛び出す空気であらゆる火を消してみたり、もみじ羽（ばね）ではゴム鉄砲から羽を天井に高く打ち上げて、クルクルと回って落ちる様子を観察ながら、自然と科学の不思議を体で感じていました。子どもたちからは、「とても楽しかった」、「科学は不思議なことがたくさんあっておもしろい」、「次回も参加したい」という声が聞かれました。

また、小学校5年生対象に算数の補習を行う「岡谷子ども未来塾」では、一人一人が自分自身の目標に向かい、時間いっぱい集中して問題に取り組む姿が見られました。

学習後に書いてもらったアンケートからは、「先生方に、なぜそうなるのか理由が分かるまでしっかり教えてもらったのでよかった」、「家で勉強するよりも集中して取り組めた」、「算数は苦手だったけれど、苦手がなくなって楽しく感じた」など、とても良い感想をいただいております。

学校の先生方にも協力していただきながら本年度から実施した「小学生わくわくサマースクール」でありましたが、子どもたちの笑顔や前向きに学ぶ姿がたくさん見られました。来年度に向けて、課題なども精査しながら、より充実した事業にしていきたいと思います。

### ●リーダーズ倶楽部の「一日研修」について

生涯学習課からは、7月18日（日）に行われました、リーダーズ倶楽部の「一日研修」について、報告させていただきます。

生涯学習課では、7月18日（日）に塩嶺野外活動センターにおいて、リーダーズ倶楽部による「一日研修」を開催いたしました。

リーダーズ倶楽部は、平成12年4月に発足して以来、「子どもは子どもの中で育つ」の理念の基、リーダー活動を通して互いに成長しあい、自らの資質向上を目指し、地域のリーダーになることを目的に、中学生から高校生の有志で構成されております。

異なる年齢の子ども達が集団生活の中で自主性や協調性を学ぶ「わんぱくアドベンチャー」や「通学合宿」などの企画・運営をはじめ、夏休み子ども交流事業やクリスマス会の開催等の活動により、平成23年には、長年の活動功績が認められ、「全国子ども会連合会表彰」を受賞しております。このたびの「一日研修」は、今後開催される各種行事に向けて、リーダーとしての資質及び団結力向上を目的に開催いたしました。

倶楽部員42名のうち21名が参加し、高校生が講師を務め、KYT（危険予知トレーニング）研修、火付け研修、レクリエーション研修などを行いました。

緊張した面持ちで初めて参加した中学生も、高校生による熱心な研修により、終了時には自信に満ち溢れた表情に変わっており、今後の活躍が楽しみになる一日となりました。

岩本教育長： ●東京2020オリンピック競技大会について

スポーツ振興課からは東京2020オリンピック競技大会について報告させていただきます。

1964年以来、57年ぶり2度目の東京オリンピックが7月23日に開幕しました。

大会は8月8日までの17日間で行われており、史上最多となる33競技で、連日素晴らしい熱戦が繰り広げられておりますが、残すところあとわずかな競技となってまいりました。

4年に一度開催される夢の大舞台オリンピックで、すべてのアスリートが躍動する姿は、コロナ禍の続く世の中で、多くの皆様に感動と希望を与えてくれていると感じております。

開催国日本は、史上最多の583人の選手で、地の利を生かし金メダル30個を目標に掲げておりますが、現在までの日本勢のメダルは、柔道、卓球、体操などで22個の金メダルを獲得しており、過去最多であった前回の東京オリンピック及びアテネオリンピックの16個をすでに上回っております。（金22個、銀10個、銅14個、計46個）

また、今オリンピックに15名の長野県関係選手が出場しておりますが、そのうち県内出身者は6名で、陸上の「萩谷 楓」選手、フェンシングの「西藤 俊哉」選手、バドミントンの「奥原 希望」選手、カヌーの「矢澤 亜季」選手が各種目に出場し、期待と注目が集まるなか最後までベストを尽くしていただきましたが、世界の壁に一步及ばずメダル獲得とはなりませんでした。

そのほか、陸上の「デーデーブルーノ」選手、馬術の「佐藤 英賢」選手、長野県関係選手については、現在競技が続いており、メダル獲得を目指して頑張っているところでもあります。

また、岡谷市が応援するホストタウン相手国であるカナダの卓球競技については、男女シングルス、混合ダブルスに出場し、惜しくも敗退となりましたが、卓球王国 中国等を相手に堂々とした試合運びで善戦しました。

世界中の注目を集める東京オリンピックをきっかけに、多くの市民の皆さんがトップアスリートの試合を「みる」ことで、スポーツの楽しさを実感し、スポーツに対する意識の高揚と市民ひとり1スポーツの実現につながることを期待しているところであります。

私からは以上であります。

ただいまの報告について、ご質問等がありますでしょうか。

それでは、本日の議題に入ります。

議題の1としまして、「令和3年度岡谷市教職員研修について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

## ○議 題

### 1. 令和3年度岡谷市教職員研修について（教育総務課）

＜資料1に基づき、事務局より説明＞

**岩本教育長：** 今、福井大学の松木先生の講義の内容を中心に説明をしていただきました。また、これからの教育の方向性という大きな課題に対しても松木先生のお考えをお示しいただきました。感想等で結構ですので、皆さんからご発言をお願いしたいと思います。

**小平教育委員：** 教育の最先端に現状について、どのように捉えているのかがすごく分かりやすく腑に落ちることがたくさんある講義だったと感じました。

先生方がこれから問われることは教えることができないことを学校教育の中心に添えていくこと、「教える専門家」だけではなく「学びを組織する専門家」という言葉が心に響きました。インターネットで情報をいくらでも自分から取りに行くことができる時代になっているので、先生も持っている知識だけを教えるのではなく、子ども達と一緒に学んでいこうということですね。そういう気づき、ヒントが含まれている講義だったと思いました。

また、問題解決というのも大事なことだと捉えているのですが、先生方は講義が終わった後にチーム分けしてディスカッションをしたのでしょうか。

**事務局（濱）：** この講義はリモートで行いまして、福井大学から松木先生に講義いただきました。中学校に複数会場を設置し、それぞれ分かれて行われたので、そのあとの様子は拝見しておりません。研修担当の校長先生には感想等が上がりつつあるので、それを拝見しながら先生方の手応えを見ながら、その後の学校訪問につなげていきたいと思っています。

**小平教育委員：** お話をしたある先生は岡谷スタンダードカリキュラムについて、岡谷のもので学べるもの、その中ではやはりシルクが1番中心になっていると言っていました。シルクの歴史や技術など蓄積されてきたものがたくさんあり、大人たちが積極的に取り組んでシルクを盛り上げていかなければいけないし、その部分を子どもたちにもテーマとして与えるとすごく良いと思いますし、いろいろと考えることができると思います。

**岩本教育長：** 岡谷では、このような講義を聞いた後、熟議とみんな呼んでいます。必ず少人数で意見交換をして、さらに深め合う取り組みをしています。今回も非常にいい熟議が出来ました。素晴らしい素材のお話をいただいたので、それを元に皆さんが思ったことを自由に出し合う。ここにいる教育委員の皆さんもこれから熟議をやるわけですね。こういう形でみんなが想いをそれぞれ出し合って深めていく、そういったことができたようです。ありがとうございます。

**太田教育委員：** 感想です。直接お伺いしたわけではないですが、資料をいただき、説明していただき、非常に意味のあるお話だったと改めて感じています。

シンギュラリティというものが本当に来るのか、或いは来た時にその先にどうなるのかということは、私自身も具体的に想像することは出来かねますが、それでも松木先生がおっしゃるように間違いなくそういうところに向かっており、それ以降は人間とは何か、或いは人間以外の生き物、地球という意味も含めて、生き物とは何だろうかということを求めていかなければいけないと思います。また、そういうことが非常に必要な時代になってくると思います。その時にやはり生き物として、命があるものにとってより良い社会とは何なのか、より良い生き方とは何だろうかということに大きな役割を果たすのが教育というのは当然だと思います。

そういう観点でこれから学校教育、科学技術等を活用しながら命ある生き物にとってより良い生き方に繋がる教育とは何かということに進んでいくべきだし、進んでいかなければいけないということを松木先生は講義で示唆しており、おっしゃるとおりだと思います。

**藤森教育委員：** AIが普及していく中でそれに対応していく人間をどうやって育てていくかというテーマで研修されたのだと思います。

話が少しそれますが、私が小学校5年生ぐらいの時に、先生に「コンピューターと人間とどちらが頭が良いか」ということを聞かれ、私も子どもだったので「コンピューター」と答えたところ、「でも、そのコンピューターは人間が作ったんだよ」という先生の言葉を思い出しました。

これから技術がさらに発達していく中で人間がその技術をさらに革新的なものにしていく。そして、その技術を良くも悪くも使っていくのが人間なんだなと思いました。教育の役割というのはまさにそこにあるのだと思います。「人類の救世主」を育てるというミッションを先生方が共通認識として、子どもたちの教育にあたるという崇高な理想を持って、仕事に取り組んでいくことは素晴らしいことだと思います。

**草間職務代理者：** 資料を読ませていただき、私も他の文章で2045年という数字を見たことがあります。いよいよ、あと20数年後にこういう世界が現実になるということをしみじみと感じました。それでこの講演会は先ほどリモートで行ったとおっしゃっていましたが、出席された先生方は新人の先生ではなくて、学校すべての先生方が出席されたのですか。

**事務局（濱）：** 基本的にその授業を担当する先生が全て参加しました。今回、会場を特設して、栄養士の先生方なども別会場で参加しました。

**草間職務代理者：** 多くの先生がご出席されたということで、年代的にもおそらく20代からずっと広い世代の先生方がおり、捉え方が皆さんそれぞれ違うと思います。先ほど先生がおっしゃったとおり、今後これを学校にどのように活かしていくか、このような世界が訪れるまで20年しかないと考えれば早急に進めていかないと間に合わないと感じました。

サマースクールに出席させていただいた時に、サマースクールの名称に「わくわく」という言葉がついていたので、どういうことをやっているのかと思っていましたところ、湊小学校1年生から6年生までが本当に主体的に自分たちで考えながらやっていたことと、もう一つは先生方がマンツーマンに近い形で評価・指導をしていました。教えるということとその主体的に学ぶということが上手く調和されていて、今後はこのような取り組みが学校には必要なのだと感じました。

今後、岡谷スタンダードカリキュラムというものがますます重要性を増してくると思っていますが、その時代に合わせて、内容を変えたり、見直しをしていただいて、今の時代に合うものにしていただきたいと思えます。蚕など、岡谷には本当にたくさんの題材があり、どのように取り組むべきか、深く研究されているので、岡谷にあるそれらの遺産をどうやって子どもたちが主体的に学べるものにしていくかという観点で岡谷スタンダードカリキュラムをさらに発展させていけば、子どもたちが本当に楽しんで学んでいけるようになると思います。

これから間違いなくこのような時代が来ると思っていますので、先生方は切磋琢磨しながら、どんどん改革をしていっていただきたいと思えます。

**高木教育委員：** 松木先生のご講演の資料を読ませていただいて、教育関係者はあまりバーチャルを好んでおらず、豊かな直接的な体験を積ませてあげたいとみんな思っているということが書かれていて、私も最初にガーンとやられてしまった感じでした。読み進めていく中で、最後に松木先生は教師の仕事は「人類の救世主」、「AIやロボットに負けない人類を育てていく仕事」というまとめをしており、私自身も古い頭を新しくして、先々のことを考えていかなければいけないと強く感じました。

今回、上の原小学校の岡谷未来塾を拝見させていただきましたが、子どもたちが1年生から6年生まですごく集中して一生懸命勉強していたことに驚きましたが、さらにパソコン教室で5年生が算数の問題に取り組んでいて、自分で好きな問題を選んでどんどんやっていて、こういう勉強の仕方もあるのだと改めて感じました。

私が見た時には好きな問題、得意な問題を自分で選んで解いているのかなと思いましたが、それはそれで得意分野を磨いていけば、いろんな分野に発展していくので、得意な分野を突き進めていくことも大事だと思って見ておりました。ただ、浜先生にお聞きしたら、苦手な問題を解いて、それを克服することが出来たという感想を書いていたお子さんもいたということでそれも凄いことだと感じました。

**高木教育委員：** AIというものをいかに活用していくか、今の時代、これからの子どもたちにとっては絶対必要条件なので、学校の中でどう活用して子どもたちを育てていくか、これは新しい学びであり、非常に難しくもあり、なかなか大変な時代が来たと思っていますが、草間代理がおっしゃったとおり、先生方がそれぞれの捉え方をしていると思うので、その中で何か共通で考えられるものがあれば、今後それを元に新しいものを作り出していければよいと思いました。

岡谷スタンダードカリキュラムが松木先生のおっしゃる新しい学びの基本となるカリキュラムであるということで、本当によく考えて作られているということに感動しました。

これが、岡谷の子どもたちに使われていて、また先生方が使ってくださいると本当に良いと思います。

**岩本教育長：** ありがとうございます。委員の皆さんからそれぞれ貴重なご提言、ご意見をいただきました。悉皆研修しっかいけんしゅうということで、岡谷市の教壇に立つ先生方をはじめ、養護の先生やいろいろな職種の先生に入ってくださいながら、1日みっちり研修していただき、みんなで一つの課題に対して、講演を聞いたり、それに基づいて熟議をしていくというスタイルでやっております。コロナ禍の状況の中で、今回はリモートでやったり、或いは分散して各中学校単位で研修をやっていただきました。

いつも夏休みのこの日に研修をした後、先生方が変わっているんですね。私はこの研修が先生方の2学期からの授業改善に非常に活かしているという実感を持っております。それだけ、この松木先生のお話も先生方の向学心に火をつけるようなお話であると思っているわけですが、そして、仲間内でみんながいろいろな意見を出し合う中で、それぞれがやる気を出して頑張っているのだなと実感しました。

本当にいい機会になっていると思います。今後も先生方の研修については非常に大事な場として、市教委としても取り上げてやっていきたいと思っております。2学期からまた浜先生をはじめ、学力向上アドバイザーの先生方の学校訪問を積極的に行うことで、先生方と一緒に良い授業作りをしていきたいと思っております。

そして、この松木先生のお考えが先生方の一人一人の心の中にしっかりと根付いて、そして日々良い授業をするために自分はどうしたらよいかという課題意識を持って取り組んでいただける、そんな2学期になればありがたいと思っております。また、8月末には今年4月に行った全国学力学習状況調査の結果も公表される予定であります。それも各学校の授業改善に大いに生かしながら取り組んで参りたいと思っております。

松木先生のお話を聞いて、岡谷市ではいじめ根絶子ども会議というものがあります。いじめを無くすにはどうしたらいいか、これは答えがない。

しかし、非常に重要な課題です。それを異なる年齢の子どもたちが一緒になって考え、さらにそこに先生、或いは地域の方が一緒になり、知恵を

**岩本教育長：** 出し合って取り組んでいく。そして、明日、一步でも前進すればいい、そういう考えでこの子ども会議をやっているわけですが、まさに松木先生がおっしゃるこれから大事にする学びの方向に進んでいると改めて感じました。

岡谷が今やっていることが松木先生のおっしゃることの実践となっているわけですが、さらに深めながら子どもたちをこの未来の日本、或いは世界を担っていけるような人材に育てていく。そのことに向かって、まだまだ皆さんからご意見をお伺いしたいところではあります、時間の関係もありますので、このぐらいにしたいと思います。

また何かお気づきの点がありましたら、ぜひ教えていただけたらありがたいと思います。それでは、議題の1は以上とします。

続きまして、議題の2「家庭でのインターネット環境について」を議題とします。事務局から説明をしていただきます。

## 2. 家庭でのインターネット環境について（教育総務課）

＜資料2に基づき、事務局より説明＞

**岩本教育長：** 今説明がありました、ご質問ご意見ございましたらお願いいたします。

**高木教育委員：** 表の見方について、教えてください。アンケート結果のまとめの中で、95%の家庭に子どもが使用できる通信可能な情報機器があるということで、情報機器の中には親御さんが使っているスマートフォンも入っていますか。

**事務局（両角）：** はい。こちらは詳しく聞いているところでして、パソコン、タブレット、スマートフォン、双方通信ができる機器ということで聞いております。いろんな機種が含まれた数値として捉えてください。

**高木教育委員：** あともう1点、家庭のパソコンにカメラはついてますかということですが、パソコン自体を所有しているお家はこのスマホのみ15.1%を除いた数値と考えてよいですか。

**事務局（両角）：** はい。設問は後から気づいたのですが、「パソコン」と設問で聞いてしまっています。実際にはタブレットにもスマートフォンにもカメラが標準装備されていますので、来年度以降設問の仕方に工夫していきたいと思えます。

**草間職務代理者：** 関連してよろしいですか。家庭に通信可能の環境があるというのが98%となっており、2%をポケットWi-Fiで用意すれば、岡谷市は100%になるということよろしいですか。

**事務局（両角）：** 通信無制限の契約をされているかどうかが重要になります。ここにもWi-Fiの機器がございます。要は通信制限がなく使える家庭にはタブレットを貸し出せば、家庭での学習環境が整います。ただし、当然そういった通信環境がない家庭や通信が無制限でないという家庭もあります。

スマートフォンを例にするとわかりやすいのですが、月に3ギガ、10ギガ、50ギガ、何らかの制限がある家庭では、学校教育の活動にその家庭が契約している通信量の一部を使わせていただかなければいけないということになります。その場合に環境が無い家庭の他に、何らかの通信制限がある家庭にも貸し出してよいのか、これは全国的にいろいろ対応がなされているようですが、検討していかなければいけない課題であると思います。

**草間職務代理者：** 岡谷市にも440台分を用意してあると聞いておりますが、それだけ用意しておけば大丈夫であろうということですか。

**事務局（両角）：** 昨年度に用意した貸出し用のポケットWi-Fiは、何らかの経済的な支援が必要な家庭ということで、今回のアンケートの数字結果がない状態で用意していますので、就学援助の対象の家庭用に調達させていただいております。ただし、就学援助の家庭でも通信があるかもしれませんので、総合的に貸し出しを想定していかなければならないと思います。

**草間職務代理者：** カメラは学校と家庭のリモート授業には必ず必要なのでしょうか。

**事務局（両角）：** リモートによる授業は画面上に子どもたちがズラッと並んでよく塾や学校でも既にやっているような状況ですね。学校の教室に先生がいながら、家庭の子どもたちと授業を行うためには、先生の話聞いて、それを聞いている子どもたちの様子も同時に確認しなければいけないので、やはり双方にカメラがついていないとなかなか難しいと思います。

**草間職務代理者：** スマートフォンよりもパソコンのカメラの方が大きいので、そちらの方が良いですね。

**事務局（両角）：** はい。小さい画面でも出来るとは思いますが、やはり画面が大きい方が先生の表情等も分かりやすいと思います。

**草間職務代理者：** これだけデルタ株が伸びているということは夏休み後、例えば学級閉鎖とかそういう不測の事態が生じることが想像されます。今まで学校内におけるタブレットの使用が主だったと思いますが、これからは家庭と学校という使い方を早急に準備していかないと、そういう事態が起きたときに間に合わないと思います。例えば1日でも学校から家庭に持って行って通信を試してみたという機会はあるのでしょうか。

**事務局（両角）：** 昨年度に市内の小中学校で、感染の広がりとの関係で学校に来れないという家庭と繋いで、リモートによる授業を実施したことがありました。校長会の中で情報共有を図る中でそういう対応をしております。

**草間職務代理者：** 先生方もそういう授業に対応していけないと子どもたちとの交流が図れなくなると思いますので、しっかり対応していただきたいと思います。今までと感染状況の雰囲気が違っているような気がしますので、至急準備を進めていただきたいと思います。

**草間職務代理者：** 今、岡谷市はかつてないぐらい1ヶ月という長期の夏休みに入っていま

すが、今のところ、まだこの夏休みにこの環境を活用して家庭学習に役立  
てるといふ事例はありませんか。

**事務局（両角）：** GIGAスクール端末を貸し出すということはないですが、実は既に学校  
で導入している学習支援ソフトがありまして、家庭のパソコンで自分のID  
とパスワードを入力すれば利用することが出来ます。パソコンを活用した  
家庭学習の環境は100%ではないですが、環境が整っております。

GIGAスクール端末は緊急時に家庭に貸し出すということは、原則にな  
っておりますので、この夏休みに貸し出すということとはございません。

**小平教育委員：** 先ほど、草間委員が質問された1回でも端末を出すということは実際  
になってみないとわからないことがたくさん出てくると思います。緊急時の  
ためのWi-Fi機器の貸し出しは学校に来られない家庭に貸し出したという  
1例だけでそれ以外では特にまだないでしょうか。

**事務局（両角）：** 今年度はありません。緊急時、学校に来られない状態が続くという場合  
には当然貸し出しを積極的にやっていく。その環境はございます。

**小平教育委員：** 例えば、緊急事態が数日続くということがあった場合に子どもたちの授  
業の時間割については、実習の時間を取りつつ、また先生と通信する時間  
を取りつつという感じで私の中では想像しているのですが、そういう取り  
組みというのはいまもうすでに何か先生方たちの中で考えているのでしょ  
うか。時間割の方法など、何かあるのでしょうか。

**事務局（両角）：** 細かいところまでのシミュレーションというものではないですが、昨年  
度の事例から、当然授業につなぐとき、自分で勉強するときというものを  
学校の先生がしっかり作り込みをして、この時間帯はつながりますよとい  
うことで家庭と調整してやりとりをしておりました。当然、貸し出しをし  
たり、家庭にあるパソコンを使ったりすることになるのですが、ずっと  
というわけにはいかないと思いますので、生活のリズムの中に学習の時間  
を組み込んでやっていきたいと思いますという配慮のもとで行っておりました。

**藤森教育委員：** 1人1台の端末は既に整備しているということで、このアンケートの中  
では家庭での通信機器がありますかということを知っているのですが、基  
本的な考え方としては、家庭でのリモート授業になった場合は、支給され  
ている端末を自宅へ持って帰って、それを活用するというのが大前提だと  
思いますので、ここで問題になるのはむしろその家庭での通信環境とい  
うことですね。

**事務局（両角）：** 効率も考えなければいけませんし、通信環境があるという家庭もあり  
ますので、すべての家庭に持ち帰るといふことまでしなくてもつながれる  
とすれば、そこには持ち帰らなくていいという場合もあると思います。

例えば、市内全域で長期になって休校になったとします。これがもっと  
も影響の大きい状況ですね。1つの学校が休校になる、ある学級が閉鎖  
になるなど、そのように場面、場面によって違うと思います。

**事務局（両角）：** 家庭のパソコンに通信環境があれば、それを使って繋ぐのが一番早いと思います。

**藤森教育委員：** 現実的に考えると、スマートフォンを見ながら授業を受けるというのはかなりストレスがたまるし、難しいと思います。それなら支給されたもの、或いは家庭に良い環境があればそれを使うということで、両方活用しながらやっていくのが良いと思います。

**岩本教育長：** 臨時休校ということはコロナ禍の中ではそれほど多くはないと思います。長期間休校にするということはないので、タブレット等を持ち帰ってやるというのはあまり考えておりません。ただし、濃厚接触者になった子どもがいた場合は、2週間は自宅待機というルールがあります。そのような場合には、その個々の状況に応じて、家庭環境の状況も把握しながら、学校と家庭を繋いで、リモートで交流するようなことは考えております。

現に、昨年にそれを実施し、大変に喜ばれた事例もあります。また3年前に南部中学校で不登校の子どもが家庭で学習支援ソフトを使って、それを学校のパソコンでもどのぐらいやっているかを把握することができますので、それを見て登校扱いにしたという事例もあります。

子どものやる気を大事にしながら、不登校の子どもたちにリモート授業のような形で学校の風を送って、それを見ていただきながら勉強してもらおうということも可能です。そういう状況の中で学校と子どもをつなぐ道具としてうまく使えるのではないかと考えているところであります。

今年の1月に国が打ち出している令和の日本型学校教育というものが打ち出されたわけですが、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、ICTは学校教育を支える基盤的ツールとして、必要不可欠なものとしてされているという内容でした。

岡谷市としましても、基盤的ツールとして大事にそれをうまく使いこなしていく。そして、子どもたちの力をつけていきたいと考えております。

最近私が危惧しているのは、このICTを使いさえすれば、子どもたちの力がどんどんつくという考えの方もおいでになるようですが、確かに力がつく面もあると思いますが、それがすべてではなく、逆にICTを使うことによる危険性、危惧しなければいけないことも幾つか事例として起きております。そのようなところに注視しながら、上手に使っていく必要があると思っています。

このアンケートも家庭の状況を知る中で、どういったことが可能かということを探るための一つのいい資料になると思いますので、今後ICTを活用するために何をどのようにしたらいいのか、具体的には考えて取り組んでいきたいと思っています。草間委員のご指摘のようにこの2%の家庭に対してどういう支援をしていくかということが課題として残っています。委員の皆様にもこの分野に堪能な方がおりますので、ぜひお知恵をお借りできればありがたいと思います。

岩本教育長： それでは議題の2は以上とさせていただきます。ありがとうございます。  
本日、予定した議題は以上となりますが、全体を通して、何か質問等ございますか。  
委員さんから貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。  
続きまして、報告事項に入ります。  
報告事項1「令和3年6月定例会の一般質問について」、事務局より説明をお願いします。

## ○報告事項

### 1. 令和3年6月定例会の一般質問について（各課）

<資料3に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。

つづきまして、報告事項2「いじめ根絶子ども会議Ⅲ」について、事務局より説明をお願いします。

### 2. いじめ根絶子ども会議Ⅲについて（教育総務課）

<資料4に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 本来であれば、教育委員さん方にも見ていただきたいところでしたが、大人の方については、ご遠慮いただきました。子どもたちも熱心に討議して、このようなまとめをしたわけですが、この中身がそれぞれの学校で、またそれぞれの子どもの心の中に入って、いじめをなくすためにどう動くかが一番の課題かなと思っております。先生方にも子ども達を支えていただきたいというお話をさせていただきました。

ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。

太田教育委員： 長年、この会議を続けてきており、私は素晴らしい活動だと思っています。効果もきっと出ているだろうと思います。もちろん、学校現場でのいじめが完全になくなっているとは思わないし、特に最近はSNSを使った新しい形態も出てきておりますが、それでもこれはあくまで感覚的なところですが、私が子どもの頃よりはずっといじめがなくなってきていて、そういう意味では非常に良い学校になりつつあるということを感じています。

こういう活動は、ある意味、外から見た場合に基本的すぎて、地味に見えてしまっていますが、おそらく間違いなく確実かつ着実な効果というのがあると思っています。一方で、子どもの学校生活、学校現場ではなくなってきたにもかかわらず、逆に大人の社会ではますますいじめが増えてしまったり、より悪質になっている世の中になりつつあるのかなというように感じています。

**太田教育委員：** この会議が市民新聞の記事になりましたが、子どもたちが会議をやりましたということは記事に出ましたが、子どもたちがここでやってるプロセスやこの結果としての標語など、もっともっと地域社会に対して、大人に対して、子どもたちだってこんなことやっているんだ！、大人のあなたたちはどう考えるているんだ！みたいな、そんなメッセージとして活用できれば、子どもたちの活動も地域社会の中で生きてくるのではないかと思いますので、その辺の工夫をまた考えていただきたいと思います。

**岩本教育長：** はい。大事な点についてご指摘をいただきました。ありがとうございます。それでは報告事項は以上となります。続きまして、その他に入りたいと思います。

## ○その他

### ・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

**岩本教育長：** さて、事務局より説明がありましたが、何か、ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。それでは以上となります。

このほか、教育委員さんから何か報告事項があればお願いします。

それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

**・事務局（両角）：** 次回の定例教育委員会は、9月8日（水） 9時30分～ 岡谷市役所605会議室で予定しておりますので、よろしくお願いします。

**岩本教育長：** 以上を持ちまして本日の会議を終了とします。お疲れ様でした。

11時00分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 3年 10月 7日

教 育 長 岩本博行

署 名 委 員 高木千奈美

署 名 委 員 藤森一俊

調 製 職 員 白上淳